

令和2年 美郷町長 新年あいさつ

町民の皆様、明けましておめでとうございます。希望に輝く新春を、健やかに迎えの事とお慶び申し上げます。日頃は、町行政各般にわたりまして、深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、相次ぐ台風により、東日本で大規模な停電や河川の氾濫・堤防の決壊による家屋浸水など、多くの方が被害を受けられました。被害に遭われました方々には、心よりお見舞い申し上げます。

一方、昨年4月30日には、天皇陛下が御譲位され、5月1日から新しい天皇陛下が御即位されました。元号も「平成」から「令和」へと変わり、新しい時代を迎える年となりました。

さて、昨年は私にとって実質的に町長就任1年目となりましたが、「活気あふれる明るいまち」と「町外と活発な交流のあるまち」という2つの目指したい町のあり方に向かって、「礎の年」となるよう、1年間様々な検討や取り組みを行いました。

そして、今年は、これまで検討を重ねてきたことが具体的に動き出す、「始まりの年」と位置付け、様々な取り組みを一段前に進めていきます。

「山くじら」の取り組みについては、昨年6つの企業や団体と連携協定を結び、美郷町に産官学民が日本中から集まって来ることを目指した「美郷バレー構想」の実現に向け環境整備を行いました。今年は、株式会社テザック、国立農研機構、町の3者で共同開発・特許出願中の電柵部材の販売が始まるなど、いくつかの具体的な成果が出て来始めます。

インドネシアバリ島マス村との取り組みについては、昨年町とマス村との間で締結した「技能実習生等の受け入れに関する協定」を基に、第一号となる技能実習生の受け入れを今年から行う予定としており、町内事業者の人手不足の解消に向けた取り

組みが始まります。

また、昨年は美郷町の認知度アップを目的に、みさ坊のPRを強化しました。積極的にイベントに参加し、SNSなどを活用したPRを行うことで、2019 ゆるキャラグランプリで24位になるなど、美郷町の認知度・注目度アップに大きく貢献しました。今年も、認知度アップ以上に具体的な美郷町の魅力の発信、好感度アップに力を入れていく予定です。既に昨年10月1日に町の公式ホームページをリニューアルし、美郷町の魅力を発信していく取り組みの総称として「みさと。」というコンセプトで取り組みを始めています。

その他、新大和荘オープンに向けた準備や、避難所の強化も始まります。

新大和荘は、今年11月末に完成し、来春オープン予定です。オープンに先立ち、町民の方に満足して使って頂けるような運営の検討はもちろん、地域振興や地域活性化に結びつくよう町民の皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。また、町外からの観光や交流で訪れる方の中核施設となるよう、指定管理候補者としてしっかり協議を行い、準備を進めていきます。

避難所の強化については、今年町内の主要な避難所へ太陽光発電設備と3日分に相当する蓄電池の設置を行い、災害時の停電に備えた電源を確保する体制を構築します。併せて、ドローンによる物資運搬の実証実験に向けた検討を行ってまいります。

このように、今年も様々な取り組みが本格化します。新しい年が、新しい美郷町の「始まりの年」となるよう、引き続き全力で取り組んでいきますので、皆様のご理解、ご協力をお願い致します。

結びに、本年が皆様にとって健康で幸多き一年となりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

美郷町長 嘉戸 隆